

山口県における2020年の スギ・ヒノキ花粉飛散のまとめ

[報告：山口県医師会常任理事 沖中 芳彦]

前年秋の観察定点におけるスギ雄花の着花状態から、2020年のスギ花粉捕集総数を、県内測定機関の平均値として、平年値（直近10年間の平均値：この度は2,970個/cm²）の約半数の1,500個/cm²程度と予測しましたが、実測値は予測を上回る2,300個/cm²となりました（図1）。20測定機関中、9機関（図2の美祢、下関、山陽小野田、宇部、小郡、山口2、防府1、光、柳井1）においてはそれぞれの地点における平年値の半分程度またはそれ以下の捕集数でした。特に、もともと少な目の西部地区において、極めて少ない捕

集数となりました。一方、北部と東部の4機関（田万川、長門2、大島、岩国2）では平年値を上回る捕集数となり、その他の7機関は平年並みから平年をやや下回る飛散総数でした（図2）。飛散開始日は1月28日で、最多飛散日は2月22日でした。

一方ヒノキは、2年連続して多くの花粉が飛散した影響か、今シーズンは4月30日の時点で430個/cm²（平年値は1,560個/cm²）という少ない捕集総数となりました（図1）。また、地区別の飛散総数はスギと同様の傾向があり、北部

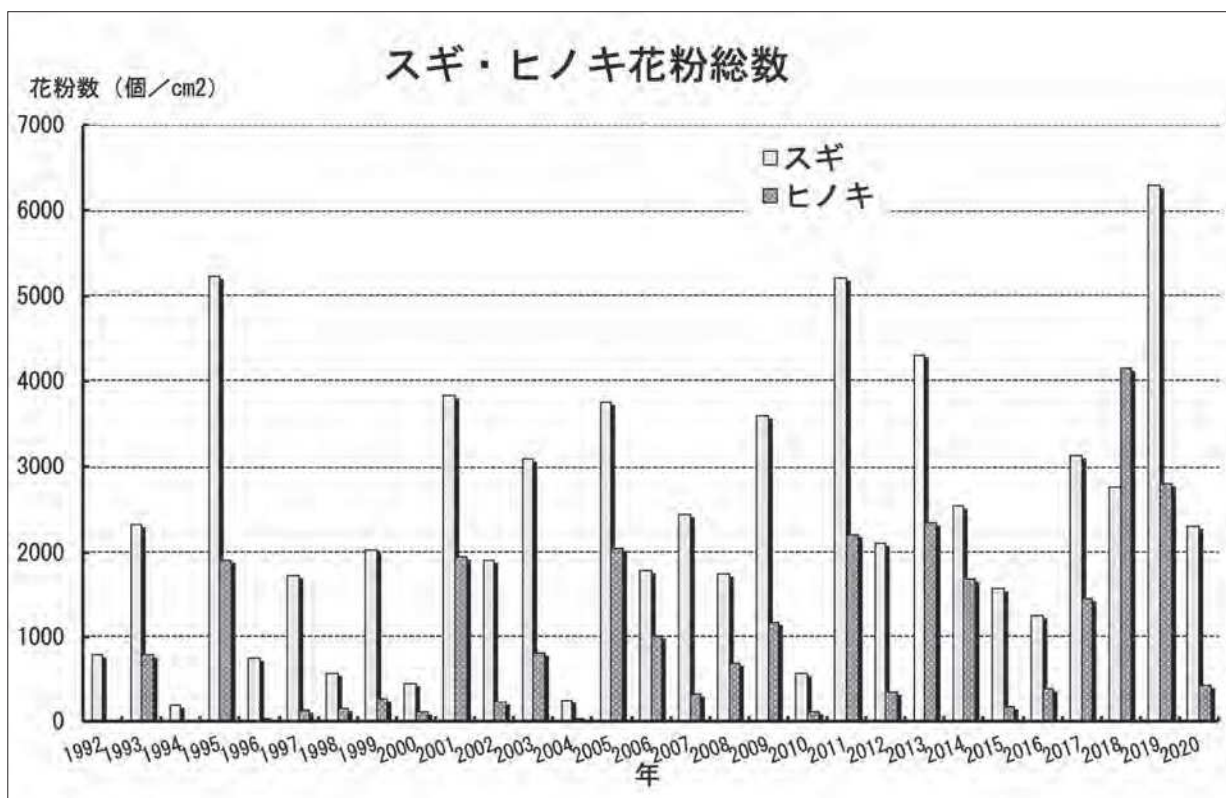


図1 年別スギ・ヒノキ花粉総数

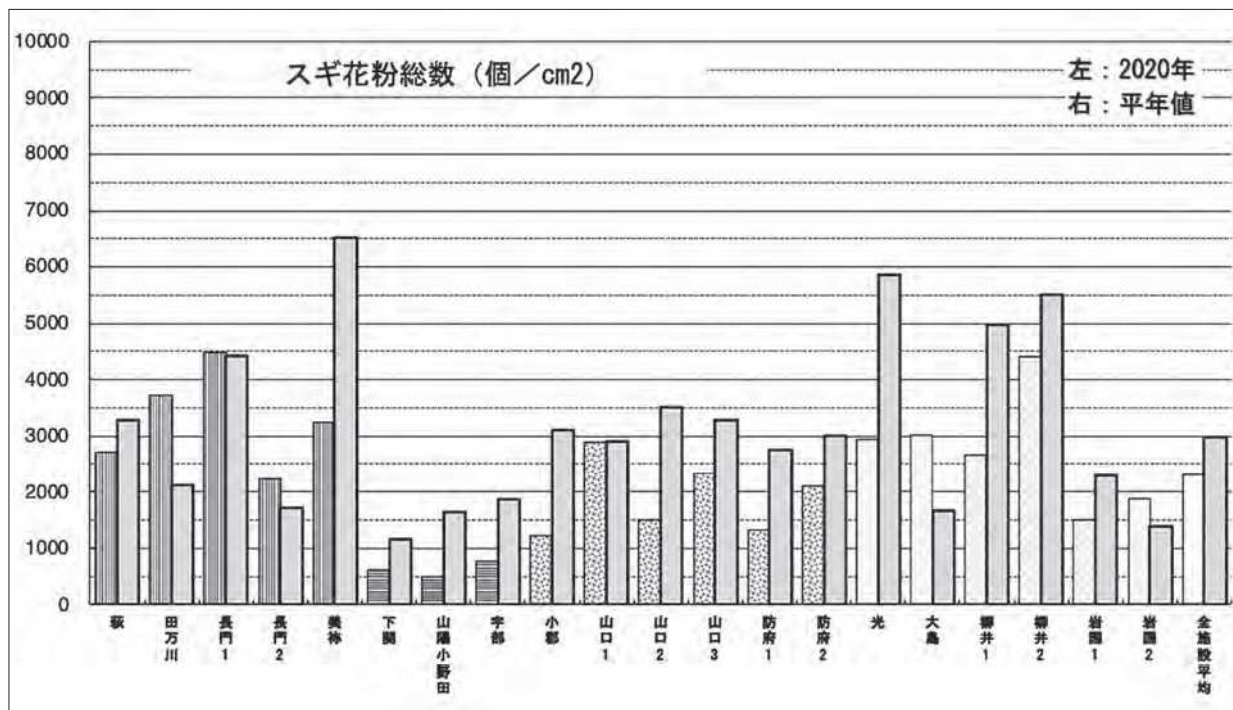


図2 2020年の測定機関別スギ花粉総数（平年値との比較）

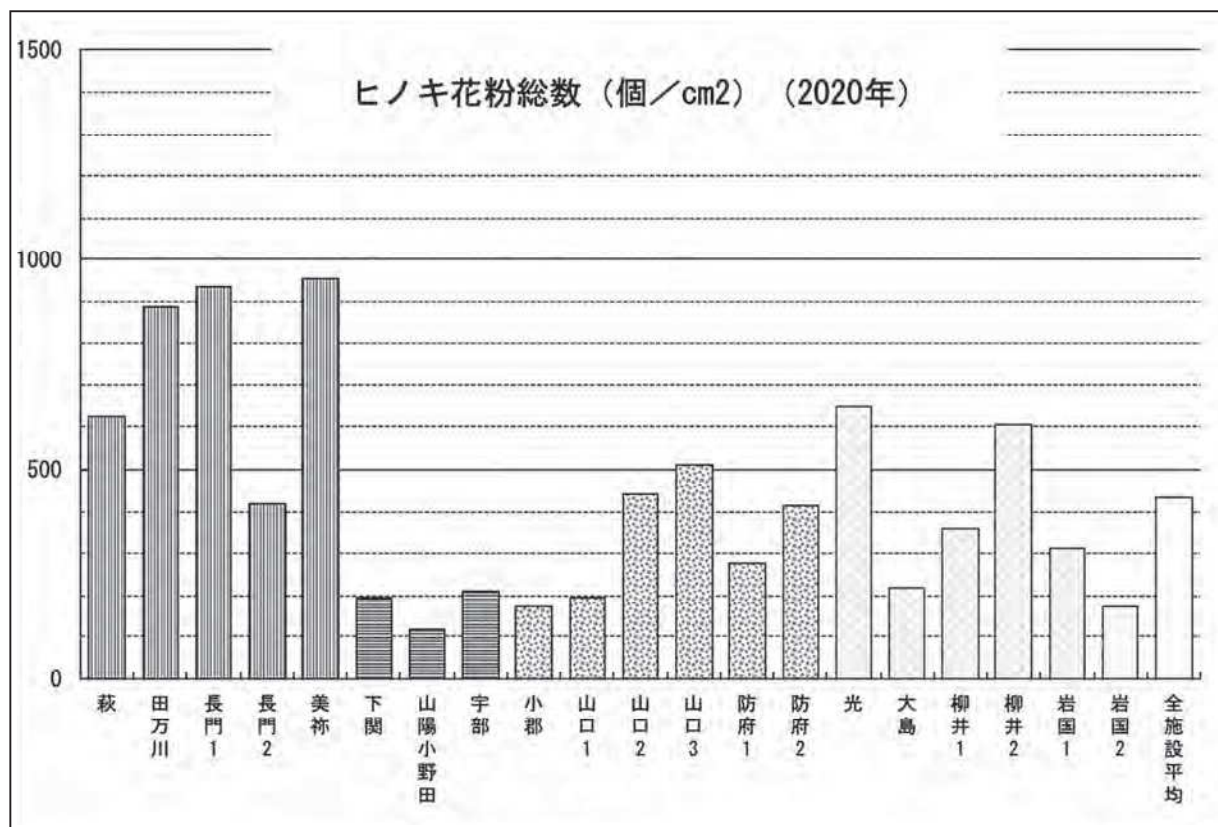


図3 2020年の測定機関別ヒノキ花粉総数

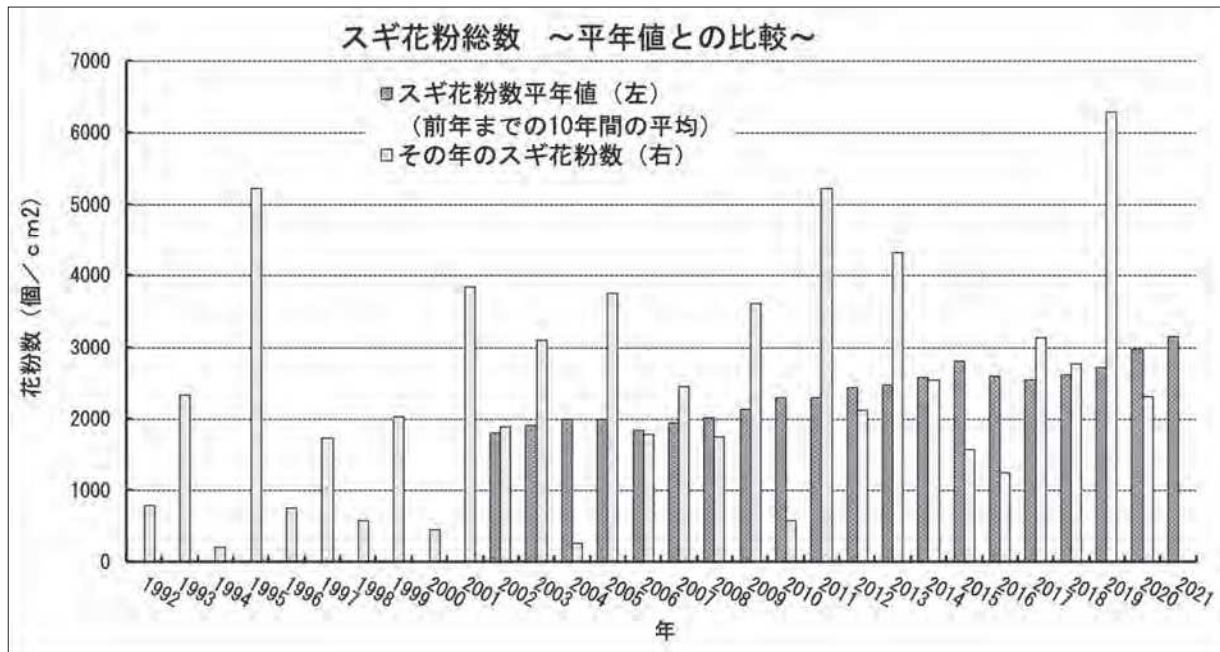



図4 スギ花粉総数 (平年値との比較)

での飛散数が多くなっています (図3)。最多飛散日は3月29日でした。

結果的に、今シーズンの花粉飛散総数は、測定機関の平均として、スギは平年値をやや下回り、ヒノキは大きく下回る値となりました。

ところで、スギは9月中旬から11月上旬の期間に花粉が形成されるのに対し、ヒノキは11月下旬に花粉形成に至らない状態で越冬して飛散直前に花粉が形成されるそうです。秋の花芽の状態からシーズン中の花粉数を予測することが困難である所以です。

今シーズンのスギは平年値以下の飛散であったにもかかわらず、2010年のスギ総数が極めて少なかったため、シーズン終了時の平年値 (直近10年間の平均値) は、前年を上回る3,140個/cm²と、何と3,000個を超える値となってしまいました (図4)。果たして来シーズンはどのような飛散状況になるのでしょうか。新型コロナウイルス感染症の行方とともに、大変気になるところです。




**医業継承・医療連携
医師転職支援システム**

〈登録無料・秘密厳守〉

後継体制は万全ですか？

D to Dは後継者でお悩みの開業医を支援するシステムです。まずご相談ください。



お問い合わせ先

0120-337-613

受付時間 9:00~18:00 (平日)

よい医様は、よい経営から

総合メディカル株式会社。

www.sogo-medical.co.jp 東証一部(4775)

山口支店 / 山口市小郡高砂町1番8号 MY小郡ビル6階
TEL (083) 974-0341 FAX (083) 974-0342
本 社 / 福岡市中央区天神
■国土交通大臣免許(2)第6343号 ■厚生労働大臣許可番号40-ユ-010064